

つなぐITコンソーシアム主催 令和6年度Webカンファレンス



「企業間取引(受発注・請求等)の 課題とその解決」

～受発注EDIからデジタルインボイスまで、
一気通貫のデータ連携モデル～

2025年 1月

株式会社グローバルワイズ

目次

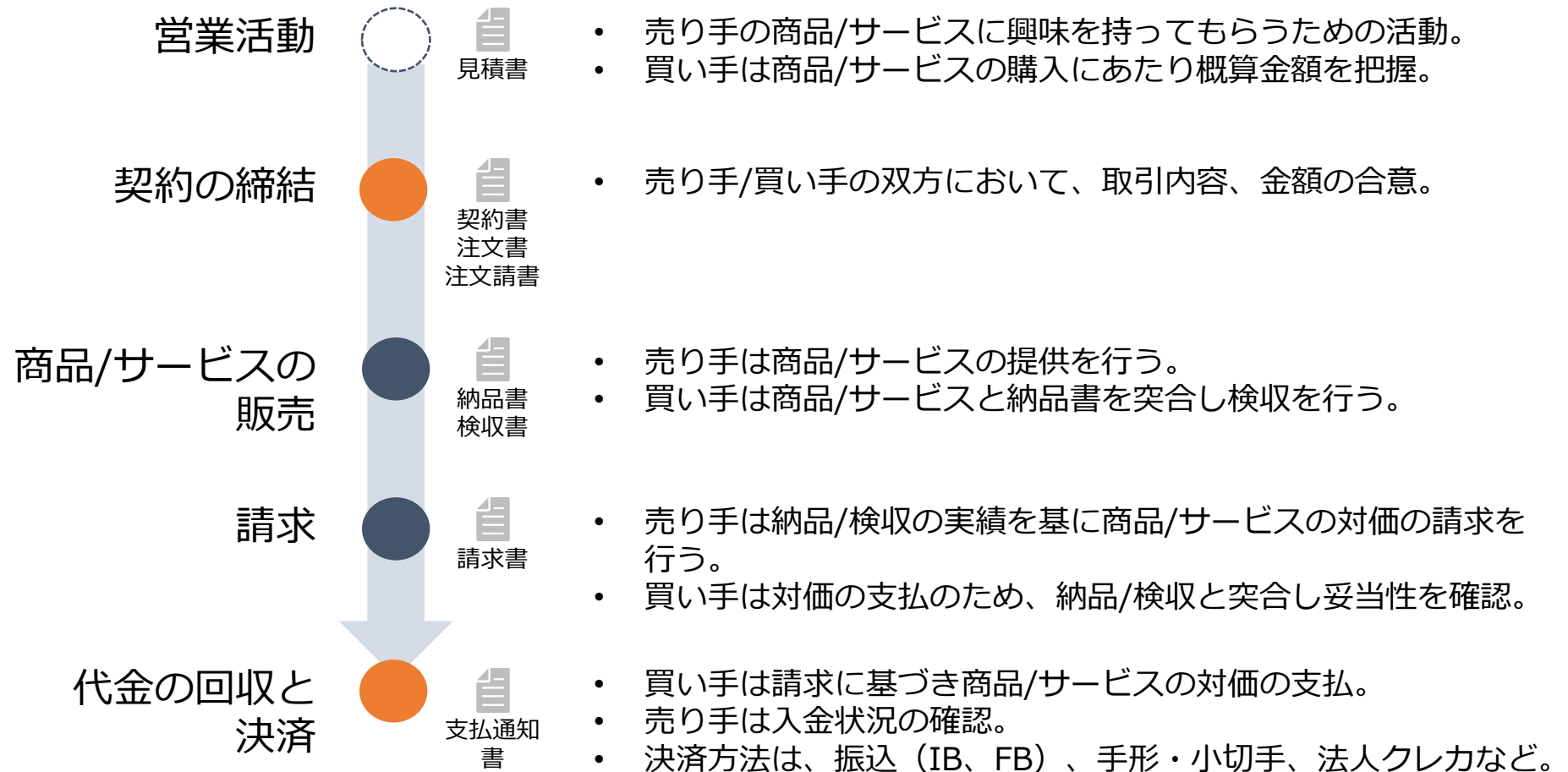
- 0 1 . 企業間取引の課題とEDI
- 0 2 . デジタルインボイスの活用
- 0 3 . EcoChangeの概要

企業間取引の課題とEDI

企業間取引とは？

- 企業同士が対価と引き換えに製品、商品、資材、サービスなどを提供する取引。
 - BtoB、B2Bと略される。
 - 政府と企業間：BtoG
 - 一般消費者と企業間：BtoC
 - 例えば、製造業者と卸売業者、卸売業者と小売業。
 - 電気設備工事業者が小学校の体育館を改築するとき、LED照明、電線、配電盤などを電材卸業者から調達。
- 企業間取引の特徴
 - 取引量や取引金額のスケールが大きい。
 - 取引関係が長期化・固定化されやすい。

企業間取引の流れ



企業間取引を定型/非定型で切り分け

EDIで解決可能な領域

非定型業務

引合（商品・サービス情報の提供）
見積、単価交渉
契約



双方向のコミュニケーションによる
情報の正確性を確保、関係性の強化

チャット、ファイル共有など
オンラインコミュニケーションツールの
活用

定型業務

見積、単価交渉 ※定型化されている場合も有り
契約、注文、注文請け
納品、検収
請求、決済



繰り返し、大量の情報を交換
業務効率化・コスト削減が求められる

EDI、B2B EC などの活用

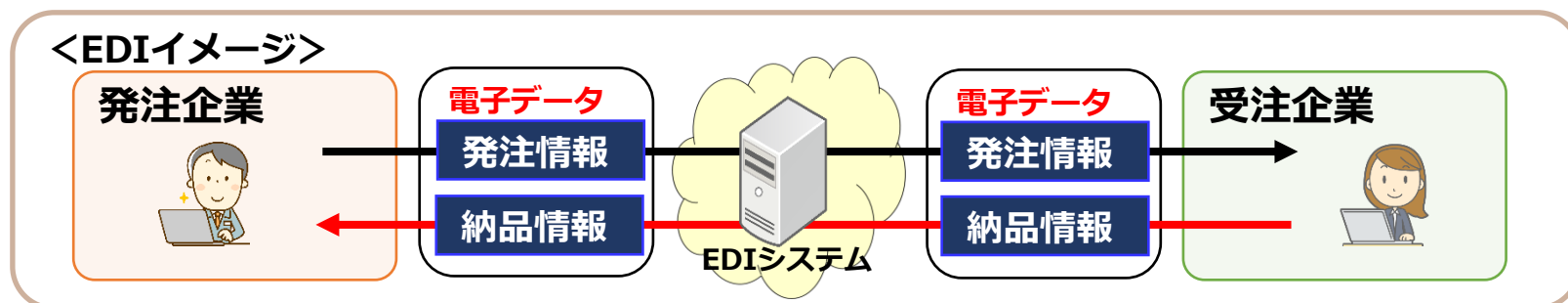
EDIとは？

※EDI= Electronic Data Interchangeの略

- EDI= Electronic Data Interchangeの略

電子データ交換のことで、
企業間取引を電子で行う仕組みのこと。

例えば、受発注の場合、**注文書**や**納品書**を
電子データで送受信可能です。



企業間取引の代表的な課題

EDIで解決可能な例

✓ 受発注の件数、手間が多い



電話、FAX、メール等の人手を介した煩雑な作業がなくなり、作業軽減、効率化を実現

✓ 受発注業務のミスに悩んでいる



電話による聞き違い、FAXの読み込み違い、入力ミス、転記ミスが軽減されデータの信頼性が向上

✓ 取引先や業界の電子商取引化が進んでいる



EDIで取引することが新規取引先的前提としている企業も

✓ 手間を掛けて注文書をデータ化しても再利用されない



受発注情報が売掛債権・買掛債務に紐づくことで企業活動に必要な情報の見える化を実現

デジタルインボイスの活用

請求書の電子化

- インボイス制度、改正電帳法、テレワーク導入などを背景に請求書の電子化が進んでいる。

売り手（発行者）

- 業務の効率化、コスト削減
- 検索、再発行、修正のしやすさ
- テレワーク促進

メリット

- 請求書を受け取る側（買い手）に仕組みを合わせてもらうことが困難。

デメリット

買い手（受領者）

- ペーパーレス（紙代、保管コストの削減）
- 受領までのタイムラグ解消

- 請求フォーマットが統一されていない。ここでも多画面問題が発生。

デジタルインボイスとは？

- 異なるシステム間でもデータ交換可能なように、標準化・構造化された電子インボイス。

インボイス（書面請求書）

- インボイス文書の記載事項を満たした書類。

電子インボイス

- 電子化されたインボイス文書。
- PDF化された請求書も該当。

デジタルインボイス

- JP-PINT (Peppol)
- 中小企業共通EDI v.4.2

業界固有

- 流通BMS等の各業界団体に標準化。

中小企業共通EDI v.4.2公開

• これまでの中小企業共通EDIとなにが違うの？

最も大きな変化点は、デジタルインボイスへの本格対応です。
2023年10月からのインボイス制度に対し、日本の商習慣に適合。

※国が進めるデジタルインボイス標準JP-PINT（日本版Peppol）と互換。

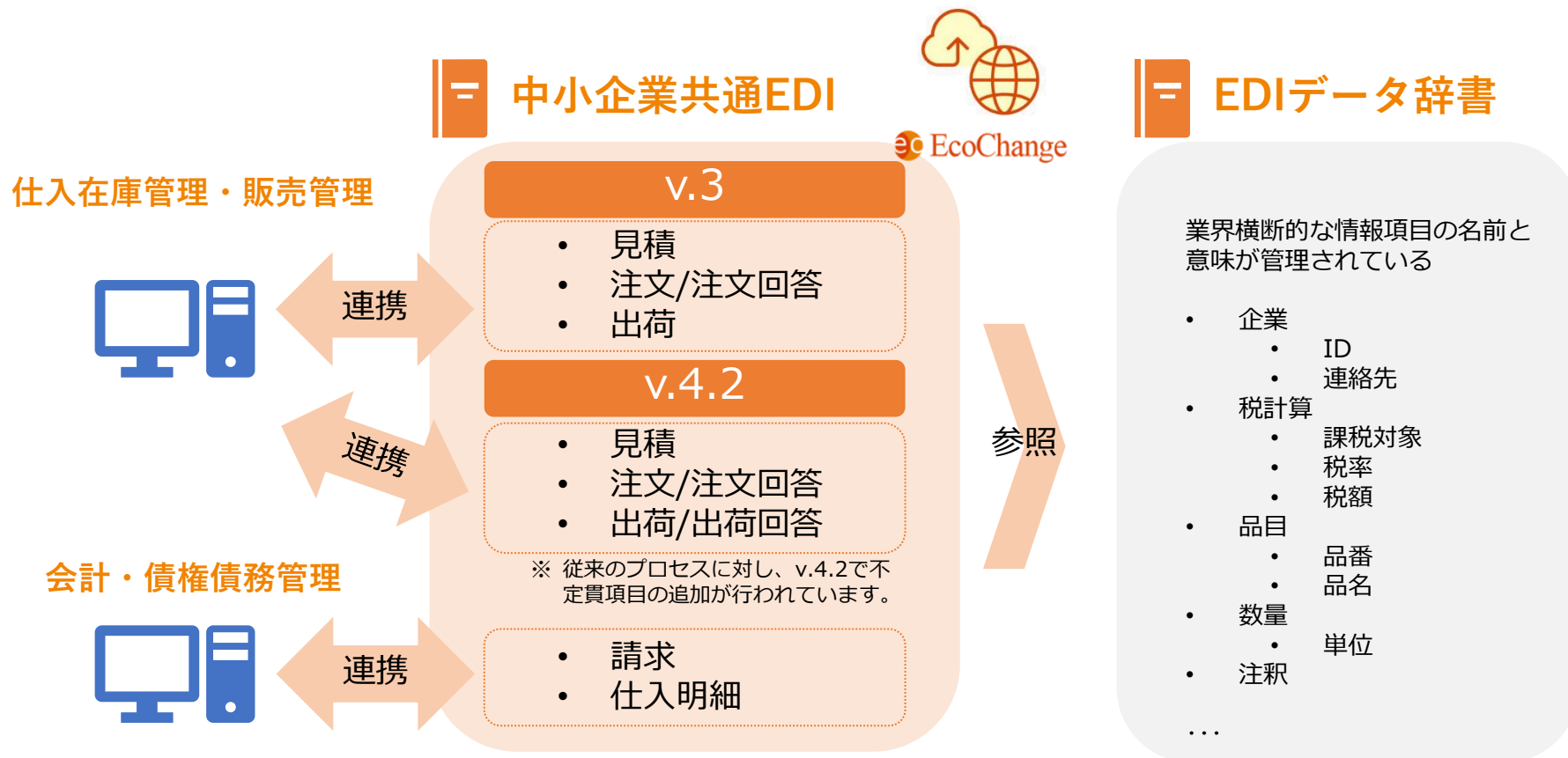
	JP-PINT	中小企業共通EDI
概要	デジタル庁が進めるデジタルインボイス標準。 欧州生まれのPeppolを日本版にローカライズ。	業界問わず簡単・便利・低コストを目指した 中堅・中小企業取引に最適なEDI。
メリット	デジタル庁が推進。多くの会計業務PKGベン ダーが対応。	受発注・納品から請求・支払まで対応。 日本の商習慣に適合。 ※豊富なテンプレート。合算/都度/統合の各様式の 請求書に対応。
デメリット	請求業務しか対応していない。 元々欧州仕様なので国内の商習慣に完全対応 できない。 ※基本は都度請求。税込み表示は非対応。	今後の普及推進がカギ。 だが大きなデメリットは見当たらない。

書面請求書のデジタル化

受発注のワンスオンリー環境実現

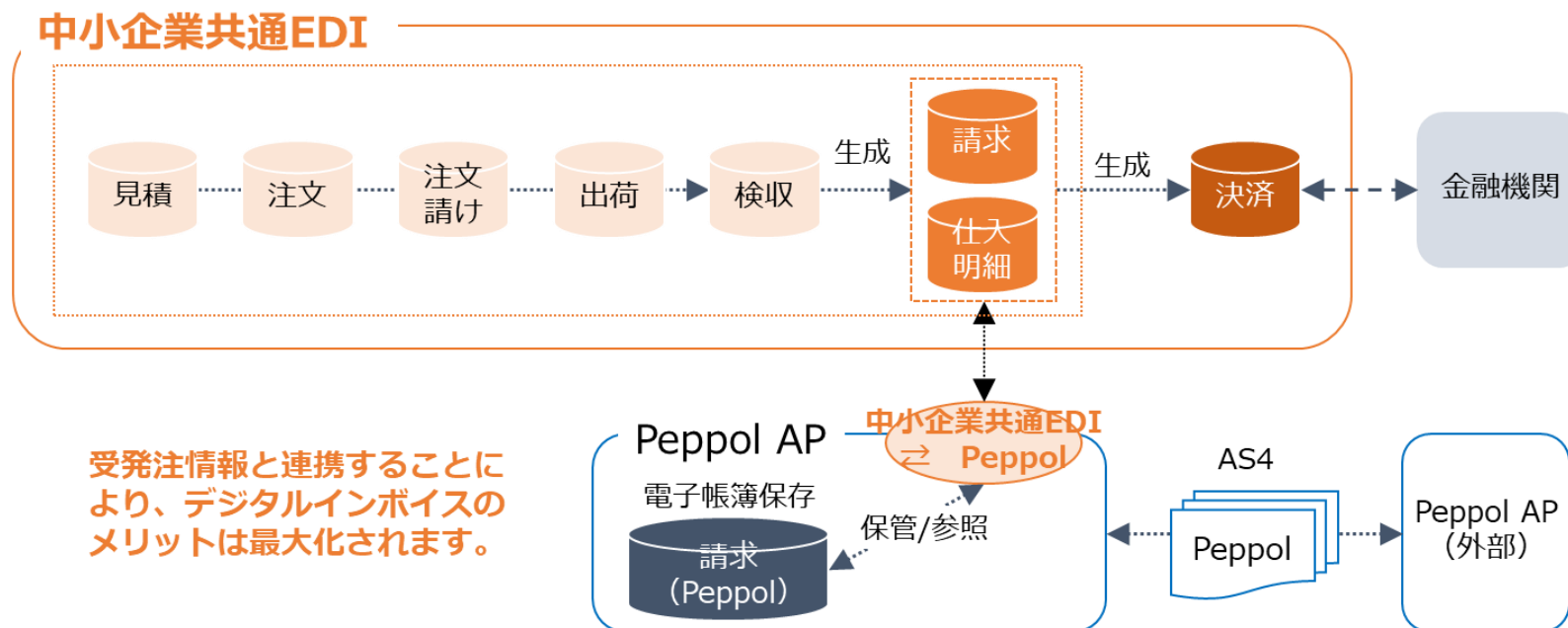
中小企業共通EDIバージョン説明

- 中小企業共通EDIは、バージョン3で見積・注文・出荷の各業務に対応。
- バージョン4.2では、デジタルインボイス業務に本格対応しました。



受発注から請求・決済まで一気通貫モデル

- 受発注業務と請求業務がデータ連携することで、売掛・買掛との突合によりデータによる消込、振込作業の自動化を実現。



株式会社ミライコミュニケーションネットワーク様の新サービス「PeppoLink」で実用化
[PeppoLink \(ペポリンク\) | 株式会社ミライコミュニケーションネットワーク](#)

EcoChangeの概要

EcoChangeについて

※EDI= Electronic Data Interchangeの略



そもそもEDIとは？

電子データ交換のことで、**企業間の取引を電子で行う**仕組みです。

例えば、受発注の場合、**注文書や納品書を電子データで送受信可能**です。

EcoChangeとは

- ・国連CEFACT準拠のインターネットEDI
- ・ITCA 中小企業共通EDI認証製品
- ・電子インボイス（Peppol）、金融EDI（ZEDI）とも連携

EcoChangeの強み

- ・業界EDIと比べて、安価で汎用的なEDI
- ・パッケージ製品なので、短期導入可能
- ・API/CSV連携で、自動化/省力化を実現

Check!!

グローバルワイズの取り組み（4つのつながる / 広がる）



EDI同士がつながる
→ チャンスが広がる



多くの条件でつながる
→ 活動の幅が広がる



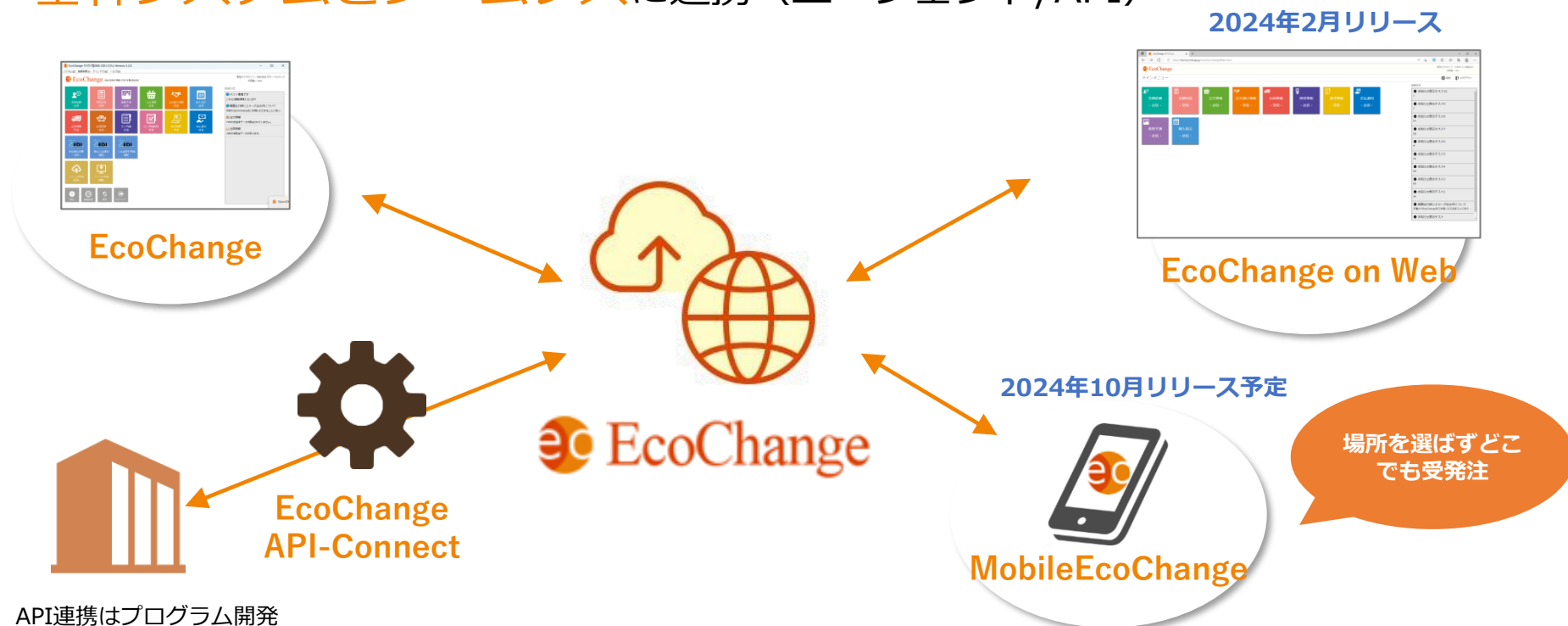
多くの製品とつながる
→ 選択肢が広がる



多くの業務とつながる
→ 効率化が広がる

EcoChange サービス全体像

- デジタルインボイスに完全対応
- Web、モバイル、時間と場所を選ばずに **どこでも受発注**
- 基幹システムとシームレスに連携（エージェント/API）



API連携はプログラム開発
が必要です

最後に

ここが始まりでここから始めないといけません！

EcoChangeはDXのはじめの一步

デジタル化によるビジネスの変革を行うには、
まず注文書を電子化しましょう！

ご不明点・ご要望などございましたら、お気軽にお問い合わせください。
株式会社グローバルワイズ お問い合わせ窓口
✉ contact@ecochange.jp